

長瀬 健二郎

No.
40



目文 🔍



※本冊子掲載二次元コードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。
本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。



心が動く、その先へ。

日本文教出版



《寄稿》

道徳教育、道徳科とウェルビーイング

しま づね お
島 恒生

畿央大学大学院教授

日本文教出版『小学道徳 生きる力』『中学道徳 明日を生きる』代表監修者。
全国の小学校や中学校、教育委員会などの研修会講師を務める。



こころのひろば

ウェルビーイングな社会を創るために

はじめに

子どもたちが社会で活躍する2040年代を展望した教育についての動きが活発になっています。そのなかで大きな柱となるのが、「ウェルビーイングの向上」です。

2023年6月16日に閣議決定された「第4期教育振興基本計画」(以下、基本計画)では、今後の教育政策の基本的な方針・コンセプトとして、「持続可能な社会の創り手の育成」とともに、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を挙げています。

また、2024年12月25日に文部科学大臣が中央教育審議会に諮問した「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」の中でも、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」の必要性が述べられています。

基本計画では、「ウェルビーイング」とは、「身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含む」ものであり、「個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態であることを含む包括的な概念」であるとしています。

そこで、この「ウェルビーイング」と道徳教育、道徳科について考えていきましょう。

ウェルビーイングとは

「ウェルビーイング」は、今から80年ほど前、世界保健機関(WHO)憲章の前文に、すでに示されています。WHO憲章は、1946年にニューヨークで開かれた国際保健会議で署名され、日本では1951年に条約第1号として公布されました。前文には、「健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます。」(日本WHO協会仮訳より)とあります。

そして最近では、経済協力開発機構(OECD)が、こ

れからのVUCA(不安定、不確実、複雑、曖昧)な時代を生きていくために必要な教育の方向性として、ウェルビーイングの実現を教育の目標としました。それまで経済発展が優位だった社会が、貧困や環境問題のなかで、本当に目指すものは「個人と社会のウェルビーイング」であるとしたのです。

ラーニング・コンパス、エージェンシー、「態度と価値観」

OECDは、2015年からEducation 2030プロジェクトを進め、2019年には、ウェルビーイングの実現のための「ラーニング・コンパス(学びの羅針盤)」を示しました。「羅針盤」という言葉には、子どもたちが教師や大人から指示されるのではなく、自分の行く方向をしっかりと考え、自ら進んでいけるように、という意味が込められています。そしてそのために必要とされるのが、「エージェンシー」です。OECDは、エージェンシーについて、自分自身の生活や周囲の世界に積極的に影響を与える意志と能力を持ち、変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力と述べています。

さらに、個人のエージェンシーだけでなく、「共同エージェンシー」が必要で、共同エージェンシーは、学習者が自分の価値ある目標に向かって進むためにサポートをする、相互的で支え合う関係であるとしています。また、共同エージェンシーよりさらに大きな「集団エージェンシー」は、社会全体を動かしていこうという考え方であるとしています。つまり、ウェルビーイングの向上のためには、個人のウェルビーイングの実現だけではなく、周りの人や集団、社会のウェルビーイングの向上やそのサポートを大事にする必要があるということです。これらの考え方の基にあるのは、インクルーシブで持続可能な社会の実現です。

我が国の基本計画も、「日本社会に根差したウェルビーイングの実現」として、自尊感情や自己効力感のように

「個人」が獲得・達成する能力や状態に基づくウェルビーイング(獲得的要素)だけでなく、利他性、協働性、社会貢献意識の醸成といった「人とのつながり・関係性」に基づく要素(協調的要素)を大事にするとともに、その両者を調和的・一体的に育むことを求めています。

また、OECDは、エージェンシーを発揮し、ウェルビーイングの向上を実現するには、「知識」「スキル」「態度と価値観」の3つのコンピテンシーを獲得する必要があるとしています。

この中の「態度と価値観」は、個人、社会、環境のウェルビーイングに向かうときの、その人の選択、判断、構え、そして行動に影響を与える原則や信念であるとしています。さらに、「価値観」については、「自分に対する価値観」「他者に対する価値観」「社会に対する価値観」「人類に対する価値観」の4つに整理しています。

我が国の道徳教育と道徳科の充実に向けて

ここまで見てきたなかで考えられることは、我が国の道徳教育や道徳科の重要性は、ますます高まるということです。

ご存知のように、現行の学習指導要領では、道徳教育は小、中、高等学校、特別支援学校ともに、「主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」が目標です。この目標は、一人一人の子どもが自分と違う意見や考えに耳を傾けつつ、自分の考えをしっかりともち、周りに流されることなく、よりよい生き方や在り方を主体的に判断しながら、他者と共に生きていくための基盤として「道徳性」を養おうというもの。これは、ウェルビーイングやエージェンシーの考え方に通じるところが多くあります。ただし、集団や社会を築いていくといった視点をもっと強調される必要はあるでしょう。

また、「道徳性」は、行いや行動ではなく、それを支える内面的資質です。つまり、こうするのがよいという具体的な行動やスキルではなく、どうするのがよいのかを自分でしっかりと考え、実践へ向かおうとする資質・能力です。これは、OECDの求めるコンピテンシーの一つである「態度と価値観」そのものです。もちろん、その他のコンピテンシーである「知識」や「スキル」にも、道徳性に関連した内容があります。

さらに、「価値観」の「自分に対する価値観」「他者に対する価値観」「社会に対する価値観」「人類に対する価値観」は、我が国の道徳の内容のA、B、Cの視点です。

以上のことから、改めて、道徳教育や道徳科の重要性を確認したいと考えます。

一方、我が国の道徳教育や道徳科で大切にしていきたいと考えることを3点あげたいと思います。

○共に考え、共にウェルビーイングの向上に向かうプラス志向の道徳教育や道徳科を

ややもすると道徳教育や道徳科は、子どもたちの足りないところを「教える」という姿勢が強かったのではないのでしょうか。子どもたちは、エージェンシーを発揮し、エージェンシーに向かって進む存在です。そして、それをサポートするのが教師をはじめとする共同エージェンシーです。子どもたちと共に考え、共に成長するプラス志向の姿勢や雰囲気づくりを大事にしたいと思います。

特に、道徳科は、よりよい生き方を求めてみんなで「考え、議論する」時間であることを子どもたちも教師も共通理解し、思い切り考え合う集団や雰囲気をつくっていきたいと考えます。

○特別活動を中心とした教育活動全体で行う「社会参画」の経験を充実させること

ラーニング・コンパスやエージェンシーの考え方は、社会に積極的に参画し、社会をよりよい方向に変えていく責任感を大切にしています。この点で、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を育てる特別活動は、とても有効な場です。特に、学級会や児童会、生徒会などの「自発的、自治的な活動」を活性化させ、それらの経験を基に道徳科では社会参画をはじめとする道徳的価値の自覚を深める学習を大事にしたいと考えます。

○個人と社会や集団の両方の視点とその調和と協調を考える

我が国は、個人の獲得的要素と集団や社会の協調的要素を調和的・一体的に育む日本発のウェルビーイングの実現を目指しています。

それは、特別活動などでのみんなでやり遂げた喜びや磨き合い高め合う集団など、共同体的な要素の強い我が国の学校だからこそ実現できると考えます。ただし、「同調圧力」に屈したり多様性を無視したりすることのないよう、常に意識することが大切です。

そのためにも、自らの弱さに負けない自主・自律の心、相手を思いやる心、磨き合い高め合う友情、違いを認め合う相互理解、集団の一員としての公正、公平や集団生活の充実などの考え方を豊かにしていく道徳教育や道徳科の充実を図り、一人一人の子どもが、他者と共に自分の人生をしっかりと生きていくウェルビーイングの向上を実現していきたいと考えます。

道徳の学習における応用編です。基本となる22の内容項目は、それぞれ独立しているわけではありません。それらは密接に関わり合い、また競合する場合があります。ここでは、内容項目間の関係を分かりやすく解説し、道徳的価値の本質やおもしろさに迫ります。

監修：広島大学名誉教授 越智 貢 共著：福山平成大学教授 上村 崇
北海道教育大学准教授 奥田 秀巳

今回のテーマ

「国際理解、国際親善」(小学校)

「国際理解、国際貢献」(中学校)

「感動、畏敬の念」

「見てわかる！道徳」では取り上げる内容項目を募集中です！

取り上げてほしい内容項目があれば、右の二次元コードからご応募ください。



国際理解と畏敬の念

落とし物を交番に届けるという行為一つとっても、その行為には親切や善悪の判断だけでなく、他者の尊重や公德心など多くの内容項目が関わっています。このことは、タイトルのリード文にあるように、道徳で列挙されている22の内容項目がそれぞれ独立しているわけではないこと、むしろそれらがさまざまな形で関わり合っていることを示しています。とすれば、一見、無関係に思える2つの項目の間にもなんらかのつながりが認められるに違いありません。今回は、「国際理解、国際親善（国際貢献）」と「感動、畏敬の念」を取り上げ、両者の間にどのような関わりがあるのかを検討することにしたいと思います。(*)

国際理解と謙虚な人

国際理解は異国の文化や宗教を理解することをしていますが、長くそれらに親しんでいる人でなければ、理解することなど不可能でしょう。いや、その人ですら、完全に理解しているとはいえないかもしれません。なぜなら、たとえ日本人の文化や宗教であっ

ても、事情は同じはずだからです。そもそも、異国他国を問わず、他者を完全に理解することは困難です。では、「国際理解、国際親善（国際貢献）」に関する記述は私たちに何を求めているのでしょうか。

中学校の「国際理解、国際貢献」の説明では、「他国を尊重」という表現が使われています。それが意味しているのは、たとえ理解が不十分であっても、他国を拒むのではなく、さらに理解し、受け入れようと努めることです。とすれば、この項目で求められていることは、「相互理解、寛容」の項目で求められていることと同じです。ここでは「自分と異なる意見や立場を尊重すること」(小学校5・6年)、そして「謙虚に他に学」ぶこと(中学校)の重要性が語られています。つまり、相手に対して謙虚であれ、と勧めているのです。このように、「国際理解、国際親善（国際貢献）」の項目は、「相互理解、寛容」の項目の国際版とも言う性格をもっています。

国の内外を問わず、自分とは異なる意見や主張と出会ったとき、2つの選択肢があります。一つは、その意見に耳を傾けて、理解しようと努めること、そして、もう一つは異なる意見を拒み、自分の主張を押し通すことです。道徳では、通常、前者を謙虚と呼び、後者

を傲慢や高慢の名で呼んでいます。それゆえ、謙虚と傲慢は、私たちが自分の能力の有限性を自覚しているか否かに深く関わっています。謙虚は自分の知識や理解力のなさを受け入れますが、傲慢はそれを認めようとしません。

ソクラテスは、生涯、こうした傲慢な態度と闘った哲学者でした。彼は、問答を介して、知らないにもかかわらず知ったかぶりをする専門家たちを論ばくしました。彼のいわゆる「無知の知」は自分は何も知らないという有限性の自覚です。彼は、謙虚でなければ物事の探究はなしえないと考えていたのです。

謙虚な人と畏敬の念

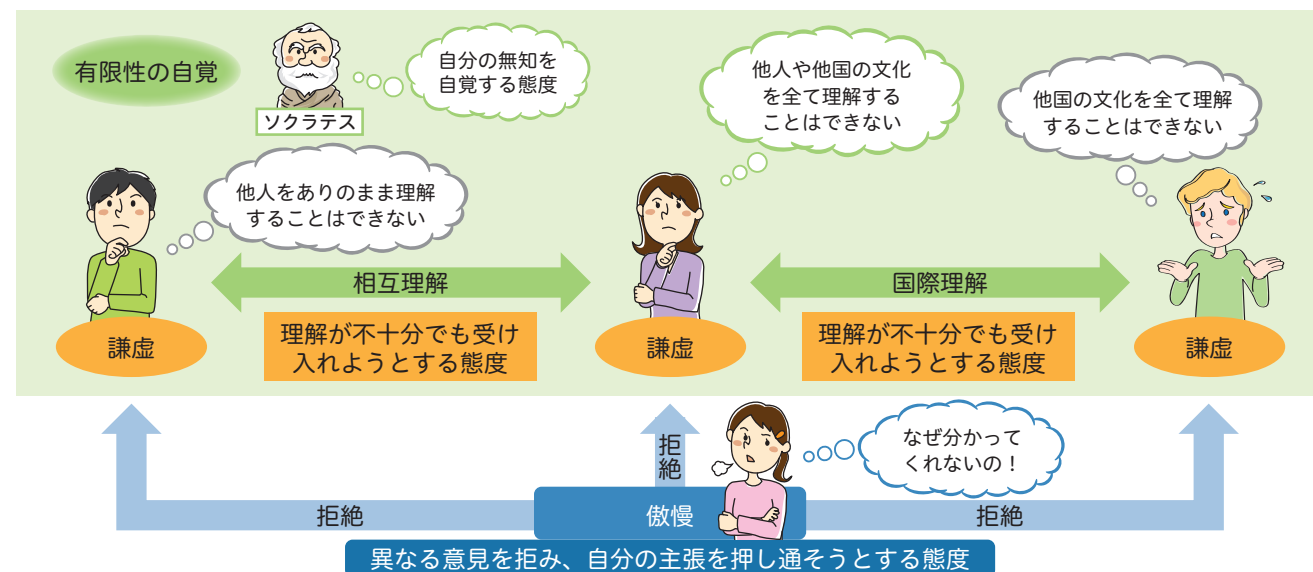
このような謙虚な態度が「感動、畏敬の念」においても必須であることは言うまでもないでしょう。そこで語られる「気高いもの」や「人間の力を超えたもの」という表現自体が、すでに私たちの有限な能力を超えていることを包含しているからです。山頂からはるか遠くの地平線にまで続く景色を一望するとき、あるいは星空を眺めながら宇宙の果てを思うとき、私たちは自分たちがいかに有限で小さな存在であるかを思い知

られます。自然や宇宙だけではなく、神社仏閣を通り過ぎる際に、いつも手を合わせたり、頭を垂れたりする人々も、同じ思いを抱いているに違いありません。逆にいえば、傲慢な態度を貫く限り、そのような私たちを超える「気高いもの」を受け入れないどころか、それに気づくことすらしないのかもしれません。

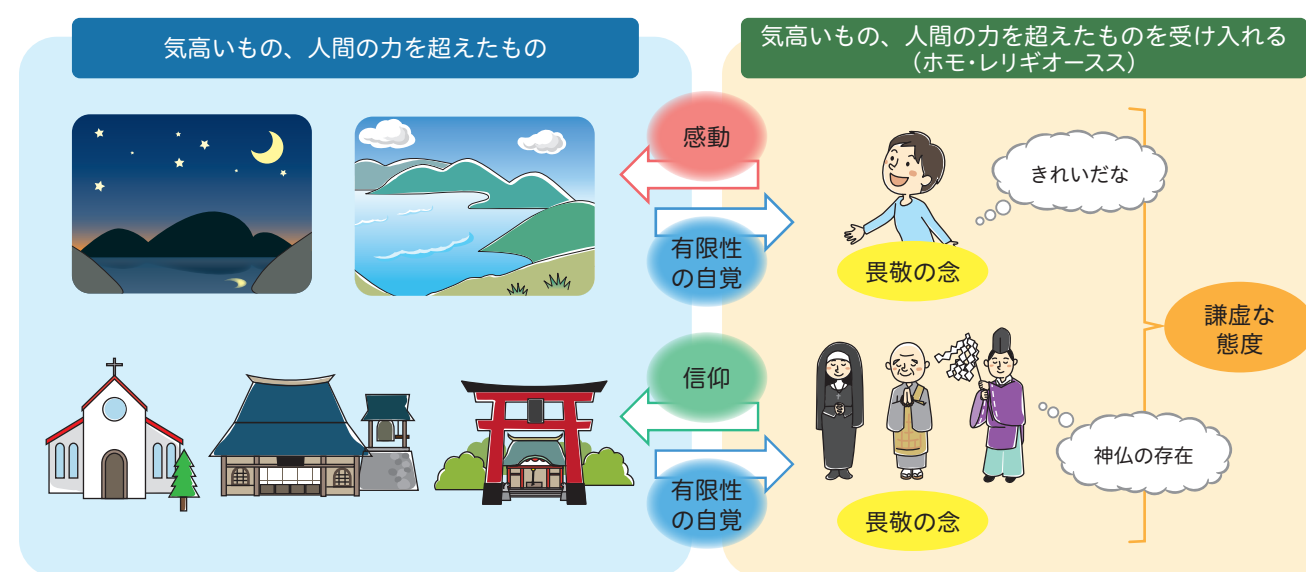
キリスト教、イスラム教、仏教などの伝統的な宗教が等しく謙虚な態度を重視したことを想起すべきでしょう。傲慢や高慢な態度で神仏を受け入れることは不可能です。このことは、ホモ・サピエンスなどと並んで人間の特徴とされてきたホモ・レリギオース(宗教的な人)が、まずは謙虚な人でなければならないことを示しています。

このように、謙虚という道徳的性質は国際理解や感動、畏敬の体験だけではなく、学問に関わる生活や宗教的生活までも支えています。教育基本法が、公教育と宗教教育との間に一線を画しながらも、「宗教に関する寛容の態度、宗教に関する一般的な教養及び宗教の社会生活における地位は、教育上尊重されなければならない」と記しているのはそのことと無縁ではないのです。(*) 今回の「国際理解、国際親善（国際貢献）」と「感動、畏敬の念」の組み合わせは、読者からのリクエストによるものです。

国際理解と有限性の自覚、謙虚と傲慢の関係



謙虚な態度と私たちの生活



小学校
6年

自分の意見を持ち、友達との意見交流を通して学ぶ道徳科の学習

大阪府大阪市立海老江西小学校 藤岡 三奈子



教材名 「手品師」(『小学道徳 生きる力 6』日本文芸出版)

内容項目 A「正直、誠実」

主題名 誠実に生きる

ねらい ごまかさずに正直であることは、自分に対する誠実な生き方からも生まれてくるものであることに気づき、どのような状況にあっても、誠実に行動しようとする心情を育てる。

教材あらすじ 腕はいいが売れない手品師が、元気のない男の子と出会い、手品を見せることで元気にします。そして、次の日も会う約束をしますが、大劇場に出るチャンスが舞い込み、手品師は迷います。

1 はじめに

6年生にもなると、道徳科の学習では「こう答えておくといいだろう。」と授業の初めに答えを予想して授業に臨むことも少なくない。その上、自分の意見を言うことが「めんどくさい。」「はずかしい。」と思うことからなかなか意欲的に発言しようとするのが難しくなってしまう学年でもある。

そこで、高学年になっても、自分の意見を持ち、友達と交流することが楽しいと思える道徳科の学習を目指して授業づくりに取り組んでいる。

2 教材とねらいとする価値について

本教材は、長年にわたり教科書等で扱われている有名な教材であり、そして手品師の葛藤を通して、ねらいに迫っていく難しい教材である。

ねらいとする内容項目は、A「正直、誠実」であり、「誠実に、明るい心で生活すること」の大切さについて理解することである。誠実について考えることを通して、「相手に対して誠実であることは、自分自身にも誠実に生きることにつながる」ことに気づかせることがねらいである。「約束を守る」ということは、「誠実に生きる」ことである。しかし、それは誰もが分かっていることである。

そこで、ねらいに迫るために、「なぜ守らなければ

ならないのか。」「どうして守ることがいいのか。」を考えさせることが、児童にとって「誠実に生きる」ことをより深く考えることにつながると考えられる。

3 指導方法について

(1) 導入の場面

初めに本時のめあてを提示している。児童の思考の焦点化を図るためにその後、教材の範読をし、教科書を閉じさせる。こうすることで、教科書の文章を読み取るだけでなく、そこから自分ごととして考えることができるようにしている。



(2) 意見交流の場面

授業展開の中で、児童は「約束を守ることが大切なのだから、手品師は男の子との約束を守るのは当然。あたりまえ。」と当たり障りのない答えを出しがちである。こういった意見交流をさせても、広がりはない。

そこで、「本当にそうなのか。」「手品師は大劇場に出るのが夢だったのではないのか。」と発問し、児童の考えを揺さぶることにした。

すると、「たしかに、大劇場に出たかったのではないか。」「私だったら、夢を叶えた後、男の子のところに会いに行く。そして、謝るかな。」「それもありかもね。」などと意見交流がさかんになり、時間を過ぎても意見を言い合おうとする様子が見られた。

(3) 全体交流とまとめの場面

ペアやグループで意見交流した後に、学級全体での交流を行った。そうすることで、近くの友達の意見だけでなく、他の考え方にも触れることができ、そこか



ら、自分の考えと比べることができた。

初めはただ単に「約束を守る」という考えだったが、「手品師は、葛藤した上で男の子との約束を守ることを選択した。」という考えに至った。また、「もし、大劇場を選んでいたら、手品師は素直に喜べていなかった。どこかに後悔や男の子を心配する気持ちがつきまとうだろう。これは、誠実に生きたと言えるのか?」という意見も出て考えを深めることもできた。

そして、男の子との約束を守る選択をした後の手品師の気持ちを考え、男の子の前で気持ちよく手品ができたことによって、自分の気持ちをごまかさず、正直に生きることが相手だけでなく、自分に対する誠実さにもつながっていることに迫ることができた。

さらには、児童から「大劇場に立つことと男の子との約束、どっちについても真剣に悩み、考えることがいちばん誠実に生きようとしていることだと思う。」という意見がでた。児童らは、その言葉を聞いて、「男の子との約束を軽く考えていない手品師はすばらしい。誠実に生きている。」と気づくことができた。

4 終わりに

本授業では、①自分の考えをもつ、②ペアやグループで意見を交流し、考えを深め合う、③全体で交流す

るというステップでねらいに迫ることにした。

児童がそれぞれの考えを深めている様子は、各ステップの発言から見取ることができた。また、自分の意見を発言するのが苦手な児童にとっても、「〇〇さんの意見はどう?」とグループ内で聞き合うことにより、考えを言えるようになってきた。

また、終末ではあえて「これまでの自分のことを振り返る」場面を指導者から押しつけないことで、道徳科の授業を通して、児童が反省して授業が嫌になったり、自分を責めてしまう気持ちをもったりしないように配慮している。その代替として、「これからの自分はどうか?」と問うことで、未来の姿に目を向けることができるようにした。すると、児童らは「道徳ノート」に記入しながら、自発的に今までの自分を振り返るようになってきた。

児童らの「道徳ノート」には、「誠実に生きることは、自分が気持ちよく過ごし、相手を喜ばせたり、幸せにさせたりできることが分かりました。」「誠実に生きると、もやもやすることなく過ごすことができるので、そのことをこれからの自分の生き方に生かしていきたいと思った。」「今度、自分が迷ったときは、どちらにすればよいかよく考えて決めたいと思います。」「私は今まで約束をしても守らないことがあったけど、これからは約束を守って気持ちよく過ごせるようにしたいです。」といった記述がみられた。

「手品師」は何度授業をしても児童の考えを深めさせることが難しく、押しつけにならないためにどんな発問が適切かと悩む教材の一つであった。しかし、このような授業展開ができた本時は、指導者と児童にとって達成感のある、充実した授業となった。

畿央大学大学院教授
島 恒生 先生の

ここに
フォーカス!

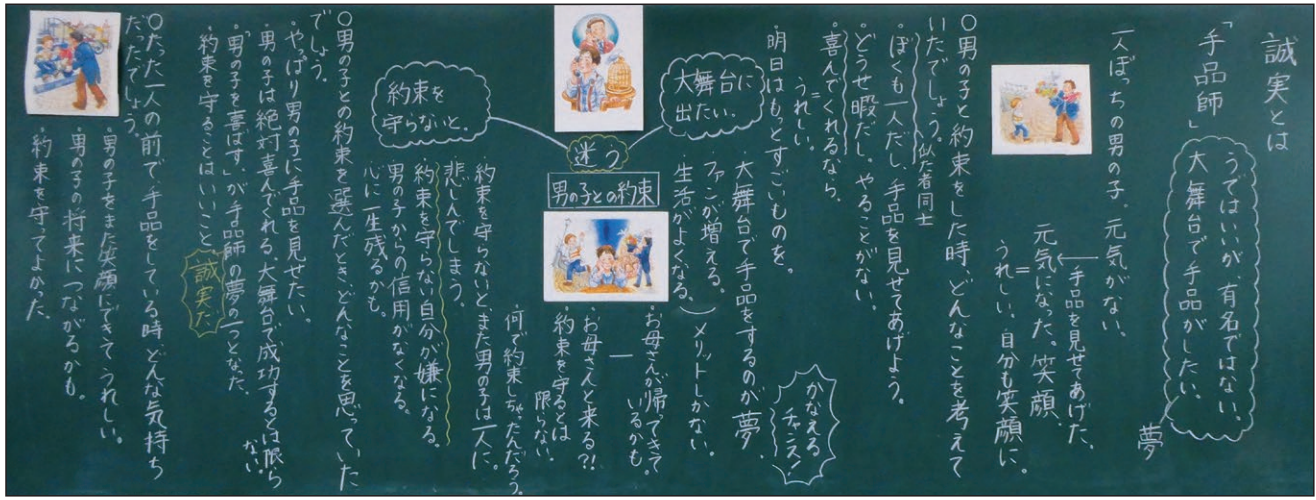


超有名な「手品師」の授業です。「男の子と大劇場のどちらに行くのが正しかったら?」とか「もっといい方法はなかったら?」などと行動面や方法論に終始しがちな教材ですが、男の子との約束を守った手品師の思いを真正面から取り上げ、子どもたちと考える授業になりました。

「ねらい」も、正直であることは「自分に対する誠実な生き方からも生まれてくるものであることに気づき……」と、高学年の発達段階に適したものになっています。

「めあて」を立てる、範読後に教科書を閉じさせる、「手品師の夢は大劇場では?」などの揺さぶりをすると工夫により、児童は自分ごととして考えを深めることができました。その後、ペアやグループ、全体へと段階的に進め、友達の意見を聞いて自分の考えをさらに深めていくことができました。この活発な意見交流は、日頃の学級経営や道徳科の積み重ねによるところもあるでしょう。

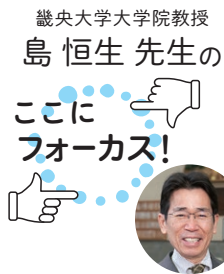
学習活動 ◎→中心発問 ○→基本発問 ☆→予想される児童の反応	指導上の留意点
導入 1 本時のめあてを知る。 ○今日は「手品師」という話を通して、「誠実」とはどのようなことかについて、考えていきます。 2 「手品師」を読み、手品師の人物像をとらえる。 ○主な登場人物は手品師です。 ☆腕はいいが、有名ではない。(売れていない) ☆暮らしもあまりよくない。 ☆大劇場で手品をしたいという夢をもっている。	・「約束を守る」ということが大事なこととは既習事項であることを確認し、その上で、「誠実とはどういうことか」について考えることができるようにする。 ・手品師には夢があることを確認し、それが手品師にとっては「大劇場で手品をすること」であることと結びつくようにする。
展開 3 手品師の思いを考える。 ○一人ぼっちの男の子に手品を見せてあげたとき、手品師はどんな気持ちになったでしょう。 ☆元気になった男の子を見て、うれしかった。 ☆自分も笑顔になった。 ○男の子と約束をしたとき、どんなことを考えていたでしょう。 ☆ぼくも一人(似た者同士)だし、手品を見せてあげよう。 ☆どうせ暇だし、明日も手品を見せてあげよう。 ☆喜んでくれるなら、うれしい。 ☆明日はもっとすごいものを見せてあげたいな。 ○仲のよい友達から電話がかかってきたとき、手品師はどんなことを考えたでしょう。 【大劇場に出たい】 ☆夢をかなえるチャンスだ。 ☆ファンが増える。生活もよくなる。 ☆メリットしかない。 ☆もしかしたら、男の子のお母さんが帰ってきているかもしれない。 ☆男の子が約束を守るとは限らない。 ☆なんで約束してしまったのだろう。 【約束を守らなければ】 ☆約束を守らなければ、男の子はまた一人ぼっちになって、悲しむだろう。 ☆約束を守らない自分が嫌になる。 ☆心に一生後悔が残るだろう。 ◎男の子との約束を選んだときは、どんな思いだったでしょう。 ☆男の子を喜ばすことが夢の一つとなった。 ☆男の子をまた笑顔にできてよかった。 ☆約束を守ってよかった。	・挿絵を活用することで、男の子が笑顔になり、楽しそうに手品を見ている様子を想像できるようにする。 ・男の子が元気になったことが、手品師にとっても喜びであることに気づくことができるようにする。 ・大劇場に出ることが夢だったことを再確認し、手品師が「約束を守る」という判断を簡単にすることなく、葛藤していることに注目させる。 ・ペアやグループで、それぞれの考えをもとに、交流した後、学級全体で意見交流をする。 ・意見交流が苦手な児童には、「自分だったらどうするか。」と声をかけ、考えることができるよう助言する。 ・約束を守ったことで、手品師も気持ちよく過ごせていることに気づくことができるようにする。
終末 4 「誠実に生きる」ということについて考える。 ○「誠実に生きる」とは、どういうことでしょう。 ☆約束を守りたい気持ちと夢を叶えたい気持ちのどっちのことも真剣に考えたことは誠実だと思う。 ☆約束を守ったことは、後悔せずに気持ちよく過ごせることにつながっているから、誠実に生きることだ。 ○授業で分かったことや考えたことを「道徳ノート」に書きましょう。	・「誠実に生きる」とはどういうことかを考えることを通して、迷った末の決断は、相手だけでなく自分に対しても誠実に接していることにもつながっていることに気づくことができるようにする。 ・「誠実に生きる」ことについて、今までの自分を振り返ったり、これからの自分の生き方につなげたりできるようにする。



5 展開～終末の授業の様子（一部）

- T** 「一人ぼっちの男の子に手品を見せてあげたとき、手品師はどんな気持ちになったでしょう。」
- C** 「元気になった男の子を見てうれしかった。」
- C** 「自分も笑顔になった。」
- T** 「男の子に『また手品を見せてあげる。』と約束したとき、手品師はどんなことを考えていたでしょう。」
- C** 「ぼくも一人だし、手品を見せてあげよう。」
- C** 「ぼくと男の子は似た者同士だ。」
- C** 「どうせ暇だし。やることもないしいいかな。」
- C** 「喜んでくれるならうれしいし。」
- C** 「ようし！明日はもっとすごいものを見せてあげよう。」
- ～大劇場への誘いの電話がかかってきて～
- T** 「手品師は男の子との約束の方を選びました。」
- C** 「約束は守らないといけないから当然のこと。」
- C** 「あたりまえ。」
- T** 「でも、友達から電話がかかってきたとき、手品師は迷いましたね。(約束は守らないといけないのに) どうして迷ったのでしょうか。」
- C** 「大舞台に立つのは、手品師にとって夢だったから。」
- C** 「夢をかなえるチャンスだし。」

- C** 「(大舞台に立ったら) ファンも増えるし、収入が増えて生活もよくなるかもしれないから。」
- T** 「では、近くの人と自分の考えを交流しましょう。」
- ～グループトーク～
- C** 「ぼくは約束は守らないといけないから男の子を選んだんだと思う。」
- C** 「もし自分だったら、大舞台にも立ちたいかな。」
- C** 「もしかしたら、お母さんが帰ってくるかもしれないし、男の子が約束を守るとは限らないし。」
- C** 「めっちゃ迷う…。」
- T** 「友達と意見交流をしてどうでしたか。」
- C** 「どっちの意見も出た。」
- C** 「答えが出せない。」
- C** 「でもやっぱり、男の子との約束を守ろうとするかな。」
- T** 「男の子の前で手品をしているとき、どんな気持ちだったでしょう。」
- C** 「男の子をまた笑顔にできてよかった。」
- C** 「やっぱり約束を守ってよかった。」
- T** 「誠実に生きるとはどういうことでしょう。」
- C** 「相手の気持ちも考えながら、どうしたいか、どうすればいいか真剣に考えること。」
- C** 「後悔したり、もやもやしたりすると誠実に生きているとは言えない。」



児童同士の活発なやりとりが分かります。「大劇場を選んでいたら、手品師は素直に喜べていなかった。」「後悔する。」「(どちらの意見も出たが、) でもやっぱり、男の子との約束を守るかな。」といった意見や、板書には「約束を守らない自分が嫌になる。」も出ています。これらは、「ねらい」につながる意見です。これらを「どうしてだろう?」「どういうこと?」などとさらに深めていけるといいですね。そうすることで、「ねらい」である「自分に対する誠実さ」の意味を児童はつかむことができるでしょう。

また、導入で「めあて」に対する授業前の考えを出させ、中心発問のあとに「めあて」に戻って考えさせることも大切です。児童は自分たちでつかんだ学びを確認することができるからです。

中学校
2年体験的な活動を取り入れた
道徳科の授業

広島県呉市立昭和北中学校 谷水 強



教材名 「包む」(『中学道徳 あすを生きる 2』日本文芸出版)

内容項目 C「我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度」

主題名 日本文化の心

ねらい 我が国の優れた伝統と文化についての理解を深め、そこに込められた「日本文化の心」に気づき、大切にしようとする心情を育てる。

教材あらすじ 「包む」という行為は、昔から現代に受け継がれている「日本文化の心」であるといえる。「わたしの心をこの中に包んであなたに贈ります」というメッセージを伝える非言語的コミュニケーションの一つである。

1 はじめに

道徳科の教材には、文体・形式・テーマによってさまざまなものがある。道徳科の授業では、生徒をその教材の世界に入り込ませることが重要になる。そのために教材提示の方法や発問などさまざまな工夫をしている。場面に臨場感をもたせ、登場人物の苦労や心情について、道徳的思考をより深めさせるために体験的な活動を取り入れることは有効である。

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』には、多様な方法を取り入れた指導として「道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること」とある。道徳的価値を理解するための例として、「具体的な道徳的行為の場面を想起させ追体験させて、実際に行為することの難しさとその理由を考えさせ」ること。また、「道徳的行為の難しさについて語り合ったり、それとは逆に、生徒たちが見聞きしたすばらしい道徳的行為を出し合ったりして、考えを深めること」「さらに、読み物教材等を活用した場合には、その教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れ」ることが挙げられている。その際、「活動そのものを目的として行うのではなく、(中略)体験を通じて学んだことを振り返り、その意義について考えることが大切である」と

述べられている。

これまで生徒と生徒との役割演技、生徒と授業者との役割演技などの場面設定やワークシートの工夫、役割演技をした生徒の感想や役割演技を見た生徒の感想を交流させるなどの道徳的思考を深めさせる工夫をしてきた。

教材によっては役割演技などの疑似体験的な表現活動とは別の体験的な活動を行うことができる。例えば、写真や映像、音楽の活用や伝統工芸品の実物に触れさせたり、ゲストティーチャーを招へいしたりすることなどが考えられる。

本教材「包む」では、包む行為に込められている「日本文化の心(慎み・謹み)」や相手を思いやる気持ちについて考えを深めさせるため、「ふろしき」で包む体験的な活動を取り入れた。

2 教材について

教材「包む」は、日常に見られる「包む」という行為から「日本の伝統文化」の根底にある「日本文化の心」について考えを深めることをねらいとしている。

日常であまり目にする事のなくなったふろしきで「包む」体験的な活動を通して日本文化が大切にしている「つつしみ(慎み・謹み)」という「日本文化の心」について気づかせる。その際、日本と他国を比較しながら日本文化について考えることにより、国による文化の違いに気づくことで国際理解や国際社会との関わりについて考えを深めることにつながる。また、日本文化の過去と現在を比較することで、新たな日本の伝統や文化が創出されていることに気づかせる。さらに、総合的な学習の時間や修学旅行などの特別活動につなげることができる考えた。

3 本時の指導方法について

(1) 導入

教材に対する生徒の実態を知るうえで重要な場面である。歴史上の人物やスポーツ選手など教材で扱っている人物についての知識や、教材に関する経験や今ま

での生活体験などを問うことで教材把握のための説明を適宜加えていくようにしている。

本教材ではふろしきについて、祖母の家で見たことがある、美術科の授業で習ったことがあるといった程度で、使った経験のある生徒はほぼいなかった。そのため、展開部分でふろしきで贈り物を「包む」体験活動を取り入れることで、その道徳的価値をより深く理解することができる考えた。

(2) 展開

ふろしきの使い方を調べた後、「ふろしき」と「和室」「和服」との共通点について考えさせ、日本の伝統文化に共通するよさに気づかせた。

ふろしきにはさまざまな包み方があることを知らせ、驚きと興味をもたせた後、自分の筆箱などをふろしきで包む体験的な活動を行った。ふろしきで物を包む動画を繰り返し提示し、苦手な生徒には個別に対応しながら全員が包む体験をできるようにした。

体験的な活動の後の話し合いでは、「贈り物を受け取る相手のために、きれいに、丁寧に包むように気をつけた。」とあるように、包んでいるときの気持ちを問うことで、相手を意識した、相手を思いやる行為であることを体感させることができた。そして、贈り物をふろしきから出し、ふろしきをきれいにたたんだ後、「つまらないのですが」と言って贈る行為に「日本文化の心」が表れていることに気づくことができた。また、贈られた側の包装紙の開け方にも国による違いがあることを知り、どちらも贈る人の気持ちを大切にしている行動であることに気づくことで国際理解にもつながることができた。

板書では、「包む」行為を水面上の氷山で表した。そして、その水面下にある氷山を「日本文化の心」、さらに最深部の氷山で「つつましい・つつむ」という控えめな心を表した。

(3) 終末

終末では、「包む」ことを大切にすることのほかに「日本文化の心」といえるものにどんなものがあるか

を考えさせた。板書の氷山のイラストを使って、日常に見られる日本の伝統的なものを水面上の氷山で表した。その水面下にある「日本文化の心」のさらに奥底にある大切にしたいものについて考えさせた。板書を活用し、「包む」行為と比較しながら考えさせることで、それらのよさに気づき、大切にしようとする心情を育てた。

(4) 生徒の感想(原文ママ)

生徒A

ふろしきで包んだりすることは日本独自の文化だということが分かった。ほかにもさまざまな用途などに合わせた和服、和室などは決まった形に合わせずどんな形にも合わせることができると分かった。ふろしきに物を包んで、初めは難しかったけど、難しくても物をあげる人への尊敬の気持ちが隠されていることが分かった。

日本の伝統的なものに共通しているよさを理解することができた。また、体験したことで包むことの難しさを感じただけでなく、「包む」行為に込められている「相手への尊敬の気持ち」に気づくことができた。

生徒B

初めてふろしきで包んでみて、日本の古くからの歴史を感じられたような気がした。外国ではプレゼントをもらったとき包装紙を破って開けるとい文化があることを知ってびっくりしました。日本では自然と「つつしむ」という文化がしみこんでいたのかと思いました。修学旅行では京都に行くので「美しさ」や「わびさび」を感じることであったらいいなと思います。

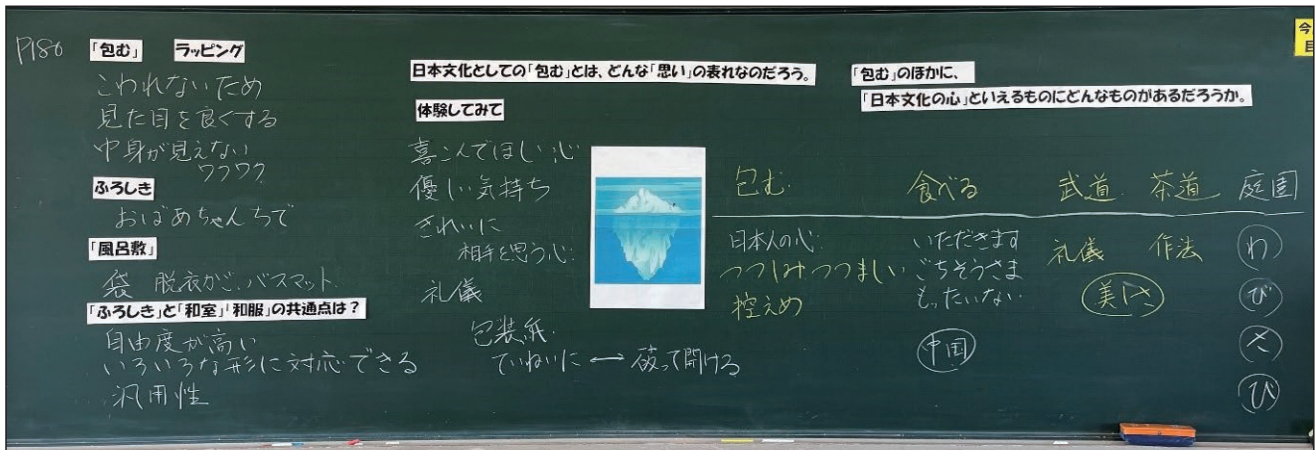
贈り物をももらったときの包装紙の開け方に違いはあっても、相手の思いを尊重する行為であることに変わりはないということに気づくことができた。日本と外国を比較し、共通点・相違点について考えることで国際理解にもつながる。また、道徳科で学んだことを修学旅行で実際に見て感じようとしていることが分かった。

畿央大学大学院教授
島 恒生 先生の



谷水先生も述べているように、道徳科で体験的な活動は目的ではありません。学習指導要領には「指導のねらいに即して」とあります。何のための活動かを指導者が意識することが大切なのです。そのためには、「ねらい」を明確にもって授業に臨むことが重要です。本時の「ねらい」は、包む行為に込められている「日本文化の心(慎み・謹み)」に気づき、そこから日本文化のよさや外国の文化との共通点・相違点を考え、国際理解へとつなぐことです。とても明確ですから、活動が目的化しません。さらに、氷山のイラストを用いて考えさせています。「氷山」の上の部分は、まさに生徒が行っている体験的な活動です。授業では、その水面下の心を考えさせることで、活動が目的にならず、ねらいとする道徳的価値について考えることができるようにしています。とてもすばらしい工夫です。

学習活動	指導上の留意点
◎→中心発問 ○→基本発問 ☆→予想される生徒の反応	
導入 1 日本の「包む」という伝統文化について考える。 ○贈り物をするときに「包む（ラッピングをする）」のはどうしてだろう。 ☆贈り物が壊れないように、汚れないようにするため。 ☆贈り物が何か分からないようにするため。 ☆ワクワク感があるから。 ☆きれいにみせるため。 ○身の回りで、ふろしきをどんなところで見ただけありますか。 ☆あまり見ることがない。 ☆おばあちゃんの家で見た。	・「包む」文化に対するイメージをふくらませる。
展開 2 教材「包む」を読み、考える。 ○ふろしきはどんな使われ方をしてきたのだろう。 ☆用途…持ち運び用の袋、脱衣かご、バスマット ☆いろいろな形のものを包むことができる。 ○「ふろしき」と「和室」「和服」の共通点はどんなところだろう。 ☆共通点…状況に応じて形態や機能を自由に変えることができる。 ◎日本文化としての「包む」とは、どんな「思い」の表れなのだろう。 【「包む」を体験しよう。】 ☆相手のことを思いながら、できるだけきれいに包んだ。 ☆受け取る人のことを思いながら包んだ。 【体験を振り返りながら考えよう。】 ☆「つつしむ」「つつましい」「つつしみ」の心（あからさまではなく、控えめな気持ち） ☆わたしの心＝相手を大切に思う、相手を敬う気持ち ☆贈り物の包装紙を開けると、きれいに開けようとするのは、それに込められた相手の思いを受け止めているから。	・ふろしきは、使うことが少なくなってきたが、現在でも使われていることをおさえる。 ・日本の伝統文化に共通するよさに気づかせる。 ・包んでいるときの思いを体感させる。 ・日本では「つまらないものですが」と言いながら贈ることがあることを伝える。 ・贈るときは、ふろしきを開き、贈り物を取り出し、ふろしきをたたんで贈る作法を知らせる。 ・外国では贈り物の包装紙を破って開けることがあるが、これはうれしさを表しており、相手の気持ちを受け止める行為であることをおさえる。 ・他国の文化を取り入れながらも、現代の日本の中にもふろしきで包む文化が受け継がれていることをおさえる。
終末 3 日本の伝統文化に込められている「日本文化の心」について考える。 ○「包む」ことを大切にするほかに、「日本文化の心」といえるものにどんなものがあるだろうか。 ☆柔道、剣道…勝ち負けだけではなく、礼儀、作法など「心」を重んじる。 ☆華道、茶道、日本庭園…礼儀、作法、わびさびの「心」 ☆宗教…正しいことを大切に「心」（ルールを守る、人に迷惑をかけない、物を大切にするなど） ☆日本語…敬語、相手を敬う「心」 ☆「いただきます」「ごちそうさま」「もったいない」という命を大切に「心」	・他国との文化の違いには深入りはせず、日本の伝統文化に込められている「日本文化の心」について考えさせ、そのよさに気づかせる。



生徒C

今日の授業でふろしきは昔からたくさんの用途で使われていると知ることができた。実際にやってみて、意外と簡単だったけど、もっとたくさんの結び方や包み方もやってみたいです。日本文化はしっかり守っていけるようにしたいです。

日本の伝統文化に興味をもつようになり、それを守っていきたいと思うようになった。

生徒D

日本の文化についてもう一度考え直すことができた。今の日本にはふろしきというものがあまり使われていない。でも、見えないけれど「ラッピング」という身近なもので使われていると考えられた。実際に包んでみたときに、心で丁寧に包むことが大事だと思った。気持ちを込めて包むことを実感しました。

ふろしきを使ったり、見たりする機会は少なくなった一方で、「ラッピング」として名前と形を変えて、現在の若者たちの世界でも引き継がれていることに気づくことができた。

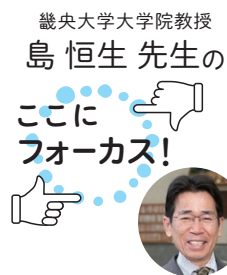
4 終わりに

本教材「包む」では、「ふろしきで包む」体験的な活動を取り入れることで、その行為に込められている「日本文化の心」について、体験を通して考えることができた。

体験すること自体が目的にならないように、体験するだけで終わるのではなく、体験をもとに思考を深めることが大切である。そのためには、体験的な活動を何のために、何を考えさせたいのかを明確にしておく必要がある。そして、時間配分や導入、教材提示、基本発問に時間をかけすぎないように心がけた。そして役割演技を含め、体験的な活動とその後の交流に時間をしっかりとることが大切である。

『中学道徳 あすを生きる』（日本文教出版）では、実物を提示したい教材として「使い手を驚かせて魅了する（3年）」の江戸切子、「臓器提供（3年）」の臓器提供意思表示カード、体験的な活動として『「愛情貯金」をはじめませんか（1年）」の「笑顔づくり」がある。このように実物の提示や体験的な活動などが取り入れられている教材はあまり多くない。

道徳科の授業の工夫や、新しい教材開発に「体験的な活動」を取り入れる視点をもつことで、より魅力的な道徳科の授業づくりにつながるだろう。



生徒の感想を見ていると、実際に包む体験的な活動をしたからこそ、感じたり、考えたりしたことをもとに、日本文化のもつよさに気づき、興味・関心を高めることができています。
また、終末でも氷山のイラストを使って、包む以外の行為の中にある「日本の文化」を生徒は考えることができました。これによって、本時の学習が「へえ、そうなんだ。」で終わることなく、京都への修学旅行では日本文化の「美しさ」や「わびさび」を感じたい、とまで思いを巡らせることができました。自己を見つめ、物事を広い視野から多面的、多角的に考えた姿です。
なお、伝統と文化を尊重する態度は、親しみ→愛着→形成者へと育てていくといいでしょう。谷水先生の実践は、これを丁寧に進めておられます。

授業力アップのための教科書・指導書活用術

中学校編

教材の範読、どうしていますか？

ー教科書QRコンテンツを活用した教材の範読のススメー

筑波大学附属中学校主幹教諭 多田 義男



教材の範読は難しい！

道徳科では、登場人物の心情や行動の意味を考えることが求められる。そのため、教師が適切な抑揚や間を意識しながら教材を範読することで、生徒は物語の情景をより鮮明に捉えることができる。さらに、その後の教師の問いかけによって学びを深めることができる。

そのため、教師が生徒の前で誤読してしまうと、生徒は「次はどこで間違えるのか。」と不安になり、教材の内容が頭に入らなくなる恐れがある。だからこそ、教師自身が教材の内容を深く味わいながら、しっかりと範読する必要がある。

上手な範読には練習が不可欠だが、忙しい日々の中でその時間を確保するのは難しい。

では、範読せずに生徒に教材を読ませるのはどうだろうか。上手に音読ができる生徒もいるが、毎回、同じ生徒を指名するわけにもいかない。「今日は○日からBさん」と順番に生徒を指名したとしても、上手に読める者とそうでない者の差が生まれてしまう。

生徒に黙読をさせるなら教師の負担は軽くなる。しかし、これでは内容に集中できる生徒もいれば、別のことを考えてしまい、時間が経過してしまう生徒もいるだろう。

生徒が教材の内容を正確に理解するためには

範読を途中で中断し、教師が「この後、登場人物のAさんはどうなったでしょう？」「Bさんはどのような行動を取ったでしょう？」といった問いかけを行う授業が見受けられる。この方法では、生徒が自由に予想を膨らませ、多くの発言が出るため、一見すると活発

な授業のように感じられる。

しかし、実際にはクイズやなぞなぞのようになりがちで、道徳的諸価値を深く考える機会を失ってしまう。

道徳科の指導で大切なことの一つに、**教材の内容を1回の範読で生徒が正確に理解すること**がある。

そのため、教材は通しで読み、その後に生徒が登場人物の心情や行動の意味を考え、自身の経験と照らし合わせながら互いの意見を交換し、対話を行うことが重要である。そうすることで、生徒は登場人物の心情の変化や価値観の形成をより深く理解できる。

それでも範読を途中で中断する必要がある場合は、その授業のねらいと照らし合わせ、本当にそれが必要かどうかを慎重に判断しなければならない。

教科書QRコンテンツの朗読音声を活用しよう！

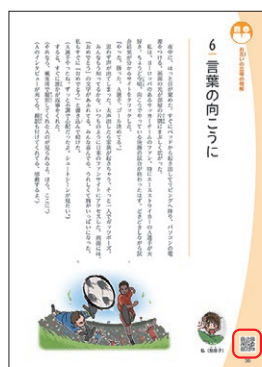
範読の悩みを解消するために教科書QRコンテンツの活用をおすすめしたい。

令和7年度版『中学道徳 1年 あすを生きる』には、全教材に朗読音声を用意されている。使い方は簡単で、教科書本冊や道徳ノートにある二次元コードをタブレット端末などで読み取るとすぐにアクセス可能だ。

この朗読音声はプロのナレーターが朗読しており、教師が何度も練習しなければ習得できないような流暢な範読を、簡単に実現してくれる。

朗読音声を流している間、教師は黒板に授業のねらいを書いたり、資料を掲示する準備を進めたりすることができる。そのため、範読終了後には余裕をもって生徒に問いかけることが可能となる。

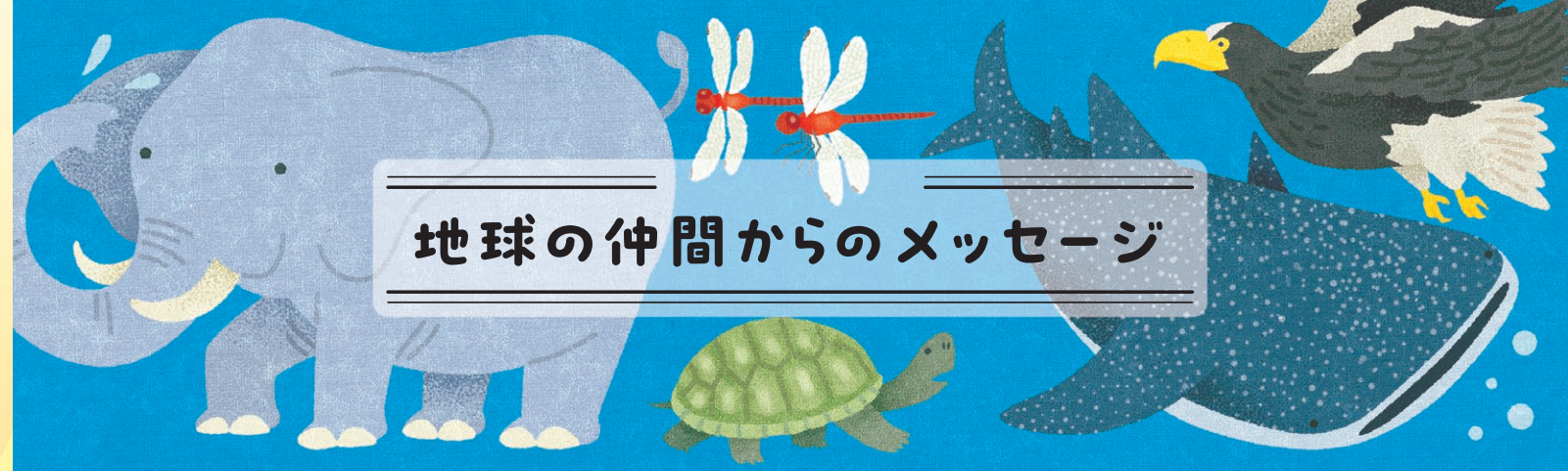
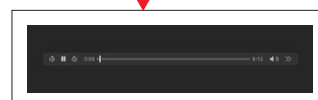
教師自身が教材を範読することにも意義はあるが、朗読音声の活用は非常に有効な手段であると考えている。



①教材のはじめのページ下にある二次元コードを読み取る。



②メニュー画面から「朗読音声」を選択する。



動物園の展示の歴史

獣医師、元大阪市天王寺動物園長

長瀬 健二郎

1828年、ロンドンで近代動物園のはじまりとされるロンドン動物園が誕生して（諸説があります）以来、ヨーロッパやアメリカで次々と動物園がつくられました。日本では、1882年に上野動物園が開園しました。それ以降、日本各地でも動物園がつくられ、現在、約90の動物園があります。これは世界的に見ても多いことから、日本は「動物園大国」と呼ばれています。

各地の動物園ではお客さんにより詳しく、そして楽しく動物のことを知ってもらおうとさまざまな努力が行われていますが、その努力の一つに展示方法があります。かつての動物園では動物たちがオリの中や柵の中で閉じ込められている印象が強い展示でした。この



かつてホノルル動物園にあった頑丈なオリの展示。オリの柵には「世界で最も凶暴な動物」と書かれています。オリの中をのぞくと、奥は鏡で自分の姿が映ります。

ような展示だと、動物は危険なものという誤解を生みかねません。そこで動物がいるところとお客さんの間に堀をつくり距離を設けて展示する方法が用いられるようになりました。また丈夫なガラスの開発により、動物をガラス越しに間近で観察することができるようになりました。このガラスによる展示は人から動物

へ、あるいは動物から人への病気の感染も防ぐことができる優れたものです。

近年、動物たちの自然な姿や振る舞いを観察できる「行動展示」が脚光を浴び始めています。それ以前から動物の展示場の中にその動物の生息環境を切り取ってきたかのように再現する「生態展示」が注目されていました。これはアメリカの動物園からはじまった展示方法でオリのない展示場の中に再現された生息環境で動物たちの自然な姿を見ることは、現地での体験に近い感覚を体感できるということで大変な評判を呼びました。「究極の展示」として日本の動物園関係者も大挙して視察に出かけ、衝撃を受けました。私もその一人です。

その時の感動を大阪のみなさんにも感じていただきたいと計画したのが天王寺動物園にあるアフリカサバンナゾーンです。ここではライオンの展示場の背景にキリンやカバ、シマウマが暮らしているアフリカのサバンナが再現され、まるでアフリカに行っているようだといまでも多くのお客様に喜んでいただいています。完成してもう20年近くになりますが、その人気は今も衰えていません。ぜひ、みなさんも大阪に居ながらにしてアフリカのサバンナを体感できる展示をご覧いただければ幸いです。



天王寺動物園のアフリカサバンナゾーンの様子

道徳セミナー開催レポート

※所属等の情報は、セミナー実施時のものです。

島先生と考える!! 道徳セミナー

2024年12月22日(日)に大阪市で、2025年1月12日(日)に名古屋市で開催しました。(対面限定)



島 恒生先生



黒田 和秀先生



中野 浩瑞先生



藤原 有佐先生

●授業実践・授業解説

- ・小学校6年「初めてのアンカー」
中野 浩瑞先生（兵庫教育大学附属小学校教諭）
- ・中学校3年「足袋の季節」
藤原 有佐先生（京都市立伏見中学校教諭）

●授業解説・講演

「道徳科における深い学び」
島 恒生先生（畿央大学大学院教授）
※コーディネーター 黒田 和秀先生（愛知県みよし市立北中学校教頭）

🎤 参加された先生方の声

コーディネーターの進行のもと、参加者と島先生からの問題提起で授業映像の中身の課題が見え、理解が深まっていく素晴らしいセミナーでした。

島先生の講演は毎年アップデートされていて分かりやすく、すぐ実践に生かせることがあるので、いつもワクワクした気持ちで帰れます。

島先生の講義は、目指す授業の形が見えて本当に勉強になりました。

授業映像の中身を道徳に深く興味のある方々と共に考える機会は本当に貴重で有意義でした。

第4回日文道徳セミナー in 東北

2025年2月8日(土)に山形市で開催しました。
(オンライン同時開催)



渡邊 真魚先生



猪岡 養子先生



山田 将之先生



積田 育子先生

●小学校授業実践

- ・2年「ぐみの木と小鳥」
猪岡 養子先生（秋田県横手市立大森小学校教諭）

●中学校授業実践

- ・3年「風景開眼」
山田 将之先生（岩手県盛岡市立上田中学校教諭）

●校長先生による授業実践

- ・3年「二通の手紙」
積田 育子先生（福島県郡山市立大槻中学校校長）
※進行・総括 渡邊 真魚先生（日本大学教授）

●トークセッション、【会場限定】どうとくCafe

🎤 参加された先生方の声

各県の熱心な先生方の道徳授業における考え方や手法に直接触れ、授業づくりのヒントを得ることができました。

会場やオンライン上の質問に先生方がそれぞれの視点やお考えから応答してくださる姿は、まさに多面的・多角的に考え、議論する道徳授業のようでした。

小・中学校のつながりや役職の異なる立場での実践、さまざまな視点からの話を聞くことができて、とても勉強になりました。

一つ一つの授業実践の内容の中身が濃く、授業者の思い入れの強さを感じました。

どうとくのひろば No. 40

日文教育資料 [道徳]
令和7年(2025年)5月15日発行

編集・発行人 佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261
FAX: 06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33745

日本文教出版株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261 FAX: 06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16
TEL: 03-3389-4611 FAX: 03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14
TEL: 092-531-7696 FAX: 092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵 1-13-18-7F-B
TEL: 052-979-7260 FAX: 052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1
TEL: 011-764-1201 FAX: 011-764-0690